Press Release

舞 鶴 市
MAIZURU CITY

令和８年11月16日

舞鶴市　×　舞鶴工業高等専門学校
「シベリア抑留証言対話システム」
大浦・朝来小学校のふるさと学習で小学生向け初の体験デモを実施

３年前に舞鶴引揚記念館が舞鶴工業高等専門学校に相談した「証言動画の体験者と直接語り合えるようなシステムを平和学習で使いたい」という構想を受け、舞鶴工業高等専門学校電気情報工学科の学生チームが開発を進められています。
先輩から後輩へと代々受け継ぎ、改良を重ね研究開発３年目を迎える本年、「AI等を活用したシベリア抑留体験者との双方向対話システム」について、市内小学生を対象とした初の体験デモを11月27日（金）に実施いたしますのでお知らせします。
当日は、大浦・朝来小学校の合同ふるさと学習の中で、舞鶴高専生の説明やサポートなどにより児童全員が体験をする予定です

１．取り組みの経緯・目的について

シベリア抑留や引き揚げ体験者が少なくなり、平和学習の場で体験者と直接言葉を交わす機会が失われています。子どもたちが自ら問いかける「能動的な対話体験」を通じて体験者の想いをより深く心に届けるため、舞鶴引揚記念館が有している証言動画を最新の技術を活用した双方向型のシステムについて、舞鶴工業高等専門学校へ相談したのがはじまりです。

この相談を受け、舞鶴工業高等専門学校では電気情報工学科の学生チームが研究開発をスタート。先輩から後輩へと3年間、開発を引き継ぎ、言語処理や対話精度、また操作性などの改良を重ねてきました。

当日は大浦・朝来小学校の児童がこのシステムを体験し、証言映像との“対話”を行います。また体験後の児童アンケート等を通じて学習効果や操作性を検証し、さらなる進化と将来的な引揚記念館での実用に繋げていくことを目指します。

２．実施日時　令和８年11月27日（金）10時20分～11時50分　内、40分間程度

３．場　所　舞鶴引揚記念館　セミナールーム

４．参加者　大浦小学校６年生（10人）、朝来小学校６年生（18人）
舞鶴工業高等専門学校
電気情報工学科５年生　山本瑞樹（やまもと・みずき）さん
舞鶴工業高等専門学校　片山英昭教授（指導教員）
舞鶴引揚記念館　学芸員　ほか

休日の部活動を
地域に展開

舞鶴引揚記念館　館長　嵯峨根吉宏
〒625-0133 舞鶴市字平1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp

５．体験児童　大浦小学校６年生（10人）、朝来小学校６年生（18人）

６．当日の流れ（予定　※当日変更される場合があります）
10時20分　小学生が引揚記念館に到着
10時25分　館内見学（舞鶴・引揚語りの会案内）
11時10分　高専生による　説明
体験
11時50分　終了

７．システムについて

■ システムの概要

利用者が画面を通じて自由に投げかけた質問に対し、AI（自然言語処理・音認識技術）が質問の文脈を瞬時に解析。舞鶴引揚記念館が保有するシベリア抑留体験者の証言動画アーカイブの中から最も合致する場面を即座に抽出し、体験者本人の映像と音声を再生する双方向コミュニケーションシステムです。

■ 主な特徴・技術的ポイント

（1）能動的な「対話」を生む自然言語処理

決まった選択肢を選ぶだけでなく、日常の自然な言葉（「どんなものを食べていたの？」「寒さはどれくらいだった？」など）で質問しても、AIが適切な回答箇所を高精度に回答します。

（2）小学生でも直感的に使えるUI（操作画面）設計

子どもたちが使いやすいように、チャット形式や音声入力対応など、画面設計を追求しています。

（3）先輩から後輩へ受け継がれる継続開発

舞鶴工業高等専門学校電気情報工学科の学生たちが3年間にわたり代々開発を引き継ぎ、対話精度の向上やシステムの安定化など、毎年現場のニーズに合わせた改良を積み重ねています。

舞鶴引揚記念館　館長　嵯峨根吉宏
〒625-0133 舞鶴市字平1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp